

Title	低温センター吹田地区運営委員会報告
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1973, 4, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/5323">https://hdl.handle.net/11094/5323</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 低温センター吹田地区運営委員会報告

48. 7. 30 開催分

1, 共同利用実験装置利用申込みに対し, 次の研究者, 研究テーマに対し使用を許可した。

## ○SQUID

裏 克己 (工) : 超伝導鉛の残留表面抵抗

田崎 明 (基) : ヘム蛋白質の磁化率測定

## ○50KG シングル超電導マグネット

赤尾文雄 (産) : ゲルマニウム中の浅い不準物準位にある中性ドナー電子による $\mu$ 波超音波吸収の磁場効果に関する実験

## ○50KG 光学用超電導マグネット

白藤純嗣 (工) : 化合物半導体の束縛励起子発光の磁場特性

浜口智尋 (工) : 層状半導体の磁気-光効果

## ○100KG 超電導マグネット

岡田東一 (工) : 第II種超電導体の速中性子照射効果

白藤純嗣 (工) : 化合物半導体の束縛励起子発光のゼーマン効果

## ○クライオミニ

白藤純嗣 (工) : 低温液体の電気伝導の研究

中島信一 (工) : 銅ハライド及びII-VI化合物のラマンスペクトル

使用日の調整は低温センターが行う。

使用料金を徴収し, 将来の修理代金にあてる。

2, 47年度決算が原案通り承認された。

3, 48年度予算案を審議し, 原案通り承認された。48年度の供給予測量は液体窒素を92000 $l$  (前年度比2割増), 液体水素を220 $l$  (同2割増), 液体ヘリウム2460 $l$  (同3割増)とした。

4, 作業主任者 (高圧ガス取締法による) に対する手当と人事記録への記載および水素液化に対する危険手当の要望がセンター側から出された。運営委員会として最大の努力をはらうことが確認された。

5, 管理室に資料や部品を保存する場所と100KG超電導マグネットのための, 回収配管の設置についても運営委員会として努力することになった。

6, 低温センターの設備の状況について説明があった。最近液化機の故障が続いたが, 技官の努力と三菱電機中研の協力で一般の供給に不便をかけなかった。回収装置については弁等一式を交換することになった。

○共同利用実験室利用者の決定

48年度後期の共同利用実験室の利用申込みを審議した結果前期に認めた4テーマの他に次のテーマに対しても利用を許可した

- ・中島信一：IV-VI化合物半導体の低温における電磁気効果

○100KG超伝導マグネットの経過報告

最高106.5KGの磁場が4.2Kで発生できたことが報告された。

○豊中地区からの液体水素申込みについて

豊中地区でのヘリウム液化機の設置に伴い、液体水素の供給ができなくなるため、吹田分室に対し応援を求められた件につき審議した。吹田分室としては原則として引受け可能であるが、安全性等の問題があるので、全体の運営委員会で結論を出すことを要望することになった。